

平成29年度 府中市立矢崎小学校 学校経営報告

校長 刀禰 俊明

1 今年度の取り組みと自己評価

今年度の学校経営計画を受けて

(1) 教育活動への取組と自己評価 (2) 重点目標への取組と自己評価

について次のようにまとめた。

(1) 教育活動への取組と自己評価

(ア) 確かな学力の向上

学習規律、学習習慣の定着・基礎的、基本的な学力の向上

各クラスの実態に応じて始業・終業のあいさつの徹底、発言の約束等を徹底することで、しっかりと学習に取り組んでいた。さらに各クラスの実践を基に矢崎小スタンダードの策定を進めていく。火・水・金曜日の朝学習を徹底し、特に水曜日は東京ベアシックドリルを活用し「立ち戻る学習」「繰り返す学習」「確かめる学習」「既習事項を活用する学習」を推進することができた。

問題解決力の向上・ICT教育の推進・教員の指導力向上

ICT機器も活用し「問題解決的な学習」や「自らの考えをもち、友達等との言語活動」を、各教科等で推進し、児童の思考力・判断力・表現力を向上させる授業を展開することができた。それを通して、教員一人一人の授業力、指導力を向上させる校内研究や校内OJT研修を行うことができた。さらに、東京都ICT教育環境整備支援事業を活用し、児童にICT機器活用力を高める取組を推進することができ、来年度から市のICT推進校として東京都プログラミング教育推進校の指定を受け、さらに推進させる。

(イ) 豊かな心と社会性の育成

道徳教育、人権教育の推進

「特別の教科 道徳」の実施を意識し、道徳の時間の充実を目指し、校内研究にも取り組み、週の指導計画で授業内容や道徳的価値の点検、授業観察を通しての指導、実施時数の確認を行った。さらに、府中第三中学校学区での小中連携の一貫として道徳を位置付け、互いに学び合う機会を設けてきた。道徳教育、道徳授業の充実により、内容項目に沿った児童自身の振り返り、話し合いを行うことで、価値に迫る授業が展開できた。

また、人権教育を推進させるために、6月に人権教育プログラムを活用した研修を実施し、平素の指導における人権意識を高めるとともに、児童の作品、掲示物等に関する人権への配慮事項を学ばせた。さらに、職員会議や金曜日の生活指導連絡会等を活用して日々の児童への指導を振り返らせることで、教員の人権感覚を向上させ、教師一人一人の、児童の友達を傷付けるひと言や行動に敏感に反応できる意識が高まり、いじめの未然防止、早期発見・解決につなげることもできた。今後も、教職員が一丸となって、さらに児童の道徳性や人権意識を醸成する必要がある。

規範意識の醸成・いじめ根絶・体験学習の充実と府中を愛する心の醸成

「矢崎の子どものやくそく」の徹底では、教員からの指導からではなく、代表委員

会や各委員会を活用して、児童レベルで守り合う意識を高めることができた。

毎学期はじめの学級活動や道徳の時間で「いじめ」についての指導を行い、児童自らが振り返りを行うとともに、代表委員会等を活用し、児童レベルで啓発し合う取組を行い、大きいじめに発展することはなかった。

農業体験や府中水辺の楽校等の体験学習を充実させ、地域の方からの指導を生かした体験学習を推進することができた。また、「郷土府中に根ざした道徳資料」を活用した道徳授業を推進するとともに、生活科や社会科を通して学区域や府中市にある府中にまつわる教材等を扱い、学ぶことで府中を愛する心を醸成することができた。

(ウ) 地域の学校をつくる。

学校だより、ホームページ、ブログ等、学校発信の情報の充実を図った。特にブログはほぼ毎日更新し、セカンドスクールや日光移動教室など2000回以上のアクセスがあり、保護者から好評を得た。

地域活動、地域行事等に積極的に参加し、保護者・地域との一層の連携と府中を愛する児童・教職員を育成することができた。

(2) 重点目標への取り組みと自己評価

上記の教育活動に対して、重点目標と数値目標を設定し、学校評価（児童・保護者）の結果や各学級での取組等から目標達成について検証した。

(ア) 確かな学力の向上

学習習慣 1日学年×10分の家庭学習 … 目標95% ⇒ 83%

読書 全学年 一人年間30冊以上の読書 … 目標95% ⇒ 88%

学力調査 第5、6学年実施の学力テストについては、昨年を上回り、6年の国学力調査はおおむね都平均を超え、5年の都学力調査はおおむね都平均レベルであった。

教員の授業力向上 学年間交換授業の実施 各学期1単元以上実施はした。しかし学年によってはかなり進めていけたが、全体としてはもう少しの状況であった。OJTは積極的に進み効果を上げた。道徳の校内研究を通して、特別な教科道徳への理解・指導力の向上が見られた。

《自己評価》

児童アンケートの結果からは目標を下回っていたが、教員の授業力向上の取組は、間違いなく児童の意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力の向上、学習内容の理解へとつながっている。来年度はさらに働き方改革をすすめる中で児童とかかわり時間、本務である授業の準備等に時間をかけられるようにして、児童の自己肯定感も高められるようにしていく。

(イ) 心に響く活動から豊かな心と社会性の育成を図る

規則の尊重・規範意識の醸成 「矢崎の子のやくそく」きまりを守る子 … 目標90% ⇒ 91%

あいさつ 進んであいさつをする子 … 目標95% ⇒ 93%

勤労・奉仕 係活動や委員会活動を進んでする子 … 目標90% ⇒ 90%

感謝 ありがとうの気持ちを表せる子 … 目標95% ⇒ 93%

友情・信頼 友達を大切にし協力できる子 … 目標95% ⇒ 93%

努力	物事を最後までやり遂げる子	… 目標90% ⇒ <u>92%</u>
安全・安心	安全に気を付けて生活できる子	… 目標90% ⇒ <u>94%</u>

《自己評価》

経営方針の中に「感謝とあいさつがあふれる学校」「安全で、安心して生活できる学校」を掲げている。教員一人一人にも浸透させ、この一年取り組んできた。「あいさつ」については各学級での取組のほか、生活指導部の取組があったことで、目標値をした回り、昨年度の91%より2%向上し93%の児童ができたとの結果が表れた。

また、「安全・安心」は「いじめ防止」を含め、いじめにつながる言葉の見直しを学校全体で取り組んだ。今年度は、昨年度以上に目標値を上回る達成を得ることができた。これは、教員のいじめに対する感度の高さ、対応・解決の迅速化とともに、いじめを生まない環境づくりが功を奏していると感じる。さらに不登校対策が進み、不登校児童が0になった。

(ウ) 学校と地域・保護者との響き合う関係から地域の学校をつくる。

教育方針等の周知	… 目標90% ⇒ <u>92%</u>
地域・保護者からの信頼	… 目標95% ⇒ <u>93%</u>
特色ある教育の推進	… 目標90% ⇒ <u>97%</u>
学校公開の実施	… 目標10回以上 ⇒ <u>12回</u>
情報発信	… 目標10回以上 ⇒ <u>14回</u>
・学校だより	… 目標毎月更新 ⇒ <u>達成</u>
・学校ホームページ	… 目標週4日以上 ⇒ <u>達成</u>
・校長ブログ	… 目標10回以上 ⇒ <u>達成</u>
児童参加による地域との交流	… 役割分担し、参加させた。

《自己評価》

教育方針の周知、保護者・地域からの信頼、地域を生かした特色ある教育活動の推進の3項目について、保護者の皆様からとても高い評価をいただいた。

本校は、農業体験、卸売市場・工場見学、府中水辺の楽校、地域清掃などに管理職のみならず、教員、子供たちも関わっていることから、地域・保護者の皆様から多くの信頼をいただいている。また、その活動の様子を学校だより、学校ホームページ、校長ブログで適時、紹介したことも功を奏していると感じる。とても嬉しい結果である。よい結果に満足することなく、さらに信頼をいただけるよう努めたい。

(エ) 東京都オリンピック・パラリンピック教育の推進

年間指導計画の作成し、発達段階に応じて「4×4の取組」の実施や「5つの資質」の育成、トップアスリートとの交流に取り組むことができた。ただ、帝京大学駅伝競走部員との交流では、インフルエンザの流行と時期が重なり当初は全校での実施を計画していたが4～6年での実施となった。

《自己評価》

各学年において取り組むことができていたが、充実度にばらつきがあり、来年はさらに良い取組ができた学年の紹介をするなどして、全校での取組を充実させていく。

2 市教委施策に対する取組の成果と課題

(1) コミュニティ・スクール

成果

○農業関連の体験活動においてコーディネーターと担当教員が地域協力者と連携を図り、計画した活動を滞りなく実施することができた。

・5年 … 米づくり体験（田植え、稲刈り、脱穀）

大根づくり体験（収穫後、郷土の森で実施の府中市「農業まつり」において体験報告発表・販売体験実施）

・1～4年 … サツマイモ栽培体験

○府中水辺の楽校と連携した多摩川体験学習

・4年 … 総合的な学習の時間で「多摩川たんけん隊」を位置付け、一年をかけて多摩川に棲む生き物、河川敷の植物・昆虫・鳥、多摩川の源流探索を行い、多摩川を深く知るとともに、ふるさととして愛する心を育成した。

2月15日（木）に3年生に向けて発表し、さらに2月18日（日）府中水辺の楽校主催の活動発表会で、4年児童が学習してきたことを発表した。

課題

●農業関連・多摩川関連ではコーディネーターと連絡を密に取り、良い活動ができたが、他の分野（読書活動等）に関してはまだうまく機能させることができなかった。来年度はコーディネーターを農業・多摩川関連とその他の活動の2名体制でできるとよい。

(2) 小中連携、一環教育の推進

成果

○小中連携一貫教育として、授業スタイルの共通化を進めることができた。教科の特性も生かしつつ、教科分科会ごとに小学校での学びのスタイルと中学校での学びのスタイルの発達段階に応じた統合を進める足掛かりができた。さらに小中合同で道徳の指導案検討・模擬授業を実施することができた。

課題

●3校の距離が遠いので、日常の交流は実施できなかった。小中のよさを生かし、交流を模索していくとともに、「育ち」の分野でも発達段階に応じた統合を進めていく。

(3) 学校経営支援予算の活用

成果

○学習や生活の場面で支援が必要なことは多々ある。特に低学年を中心に発達障害を含む個別対応が必要な児童が増えてきている。この経営支援予算が措置されていることで、適切な人材を確保することができ、子供たちへの支援に充てることができた。主な支援場面は、

- ・個別の学習・生活支援
- ・学校図書館司書
- ・低学年算数におけるＴＴ指導
- ・高学年家庭科支援
- ・夏期休業中の水泳指導補助員

課題

- 理科学習支援に関しては、人材を見つけることができなかった。常に、よりよい人材を確保していく必要がある。

(4) 副校長等校務改善支援事業の活用

成果

○支援員に、6年全国学力調査保護者公表の児童質問紙調査クロス集計、学校評価アンケートの集計、週計画の作成などを行ってもらうことで、副校長や教務主任が時間をかけて行っていた業務を割り振ることができた。

さらに今年度は1学期中ほとんど副校長が不在だった状況で、支援員に様々な仕事をこなしていただき、学校運営をとどこおりなく進めることができた。

さらに3学期からは副校長の隣に席を配置することでさらにスムーズに仕事を進めることができた。

課題

- 副校長等校務改善支援と印刷等を行う事務補助支援員の効率の良い共同作業や勤務時間を少しずつすることで担任業務の支援を充実させ、担任が児童に向き合う時間を確保し充実させたい。

(5) 東京都ICT教育環境整備支援事業の活用

成果

○まずは教師がICT機器をコミュニケーション力向上のためのツールと位置付け活用し、児童がタブレット型PCの活用力を高め、コミュニケーション力、表現力の向上を図ることができた。また、6月19日(月)には東京都ICT教育環境整備支援事業発表会を開き、市内はもとより他市へも成果を広めることができた。

課題

- 今年度の成果を踏まえ、市のICT推進校として、さらにコンテンツを充実させるとともに、都プログラミング推進校として先進的に研究を進めていく必要がある。

3 次年度以降の課題◆と対応策○

「元気いっぱい やるときはやる」を合言葉に、安心・安全で、心地よい学校を基盤に、元気があふれ、たくさんのかかわりの中で、けじめ・粘り強さのある矢崎の子の育成を目指していく。

目指す児童像・学校像(次年度以降の課題)

「学び考える子」

学習の基礎基本をどの子にも個に応じて「わかった。できた。身についた。」と思えるユニバーサルデザインの授業や家庭学習をするとともに、「考え、友達と議論し高め合う

喜びを感じる授業」を行い、児童の力と自己肯定感を高めていくことで、教師も充実感を感じる学校にしていく。

「思いやる心」

道徳の時間、特活はもちろん、全教育活動を通して、友達のよさと自らのよさを認め大切にし、異学年交流を充実させ、人や自然と仲良く共生できる子供を育てていく。自己有用感、他者理解・他者尊重の向上させる学校にしていく。

「明るく元気」

毎日明るく元気に学校に来る気力、体力を充実させ、よりよい生活習慣を身に付けるとともに、体力や運動能力向上に努め、目標に向かって努力し、最後までやり抜く子供を育てていく。

30年度は、『明るく元気』を重点目標とし、体力や運動能力向上に努め、よりよい自分になる目標に向かって努力し、けじめをつけて、最後までやり抜く子供を育てていく。

学級経営はもとより学年経営に重きを置き、チーム矢崎として全員が協力する、明るく元気な職員集団を形成していく。

対応策

◆毎日明るく元気に学校に来る気力、体力の充実を目指して

○道徳の時間、特活はもちろん、全教育活動を通して、友達のよさと自らのよさを認め大切にし、人や自然と仲良く共生できる子供を育てていく。（児童の自己有用感、他者理解・他者尊重を向上させる）

○体づくり運動・コーディネーショントレーニングの授業の中でも充実させるとともに、外遊びの推奨や体力向上月間（府中ロープチャレンジ・縄跳びボード、持久走、動物体操）を充実させる。

◆たくさんのかかわりの中で豊かな人間性の育成を目指して

○学年内交換授業や専科教員を副担任とするなどを積極的に導入し学年経営を充実させるとともに、生活指導連絡会・特別支援校内委員会を充実させ、多面的な児童理解・多面的なかかわりを通して、いじめ・不登校の未然防止はもとより充実した個別対応していく。

○縦割り班活動（縦割り班遊び、縦割り班清掃、縦割り班全校遠足）や各ブロックの中で上学年から下学年への教え（様々な教科、運動会・遠足等の行事も活用して）など異学年交流をさらに充実させていく。

○地域の人材・施設・環境等を有効活用することで学校の外においても人間関係を広げ深めていく。

◆けじめをつけ、最後までやり抜かせ、児童の力と自己肯定感を高めることを目指して

○どの子にも個に応じて「わかった。できた。身についた。」と思えるユニバーサルデザインの授業や家庭学習で基礎基本の定着を図る。

○考え、友達と議論し高め合う喜びを感じる問題解決型の授業で、主体的・対話的で深い学びをさせる。

○教材のデジタル化・共有を進め、ICTを効果的な活用し、ユニバーサルデザインの授業を進めるとともに、プログラミング教育を通して論理的に思考する児童を育成する。

- オリンピック・パラリンピック教育の推進や体力向上・異学年交流などを通して、児童の力と自己肯定感を高めていく指導をする。
- ◆安心・安全で、心地よい学校を作り、児童の成長の基盤を安定させることを目指して
- ハード面はもとより、小中連携を基盤とした、矢崎スタンダードの確立（はい・たつ・です、あいさつ（語先後礼）、ノート指導、話型、ハンドサイン等）等の発達段階に応じた統一を図り、ソフト面も充実させ、環境整備、安心・安全・きれいな学びの場づくり推進する。
- 感謝をしっかりと言える子の育成し、みんなが気持ちよく過ごせる環境を作る。」
- 指示の出し方、リズム、歩き方等を工夫し、集団としての安心・安全を高める。
- チーム矢崎として全員が協力する、明るく元気な職員集団を作る。
- 教職員のワークライフバランス、校務の効率化等による負担軽減で児童と向き合う時間を確保する。